

## LNG 二元燃料ケーブサイズバルクキャリア “SG TWILIGHT” 引渡

ジャパン マリンユナイテッド株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：廣瀬 崇）は、2月14日（金）、津事業所（三重県津市）にて建造していたケーブサイズ型バルクキャリア “SG TWILIGHT（エス ジー トワイライト）” を日本郵船株式会社殿向けに引渡しました。

本船は、LNG を主燃料とする二元燃料ディーゼル機関を搭載した大型のばら積み運搬船の先駆けとなり、弊社建造の3番船です。

従来燃料である重油の代わりに LNG を使用することで、地球温暖化の原因の一つである CO2 の排出量を従来比約 25~30%削減することができます。また、国際海事機関 (IMO) の窒素酸化物 (NOx) 排出の 3 次規制に対応するとともに、船舶の GHG 排出に関するエネルギー効率設計指標 (EEDI) においても、規定される基準値に対し 40%以上の削減率を達成しています。

### 【本船概要】

主要寸法	: 全長 Max. 299.99m x 幅 50.00 m x 深さ 25.00 m x 喫水 18.436 m
載貨重量	: 210,933 トン
総トン数	: 110,334
主機関	: Mitsui E&S DU Co., Ltd. WinGD 7X62DF-2.1 x 1 基
航海速力	: 14.0 ノット
定員	: 25 名
船級	: NK
船籍	: Japan

### 【特長】

・水面下は従来の重油焚き船の低抵抗・高効率な最適船型を維持し、併せて当社独自の省エネデバイスである LEADGE-Bow®、SURF-BULB®、ALV-Fin®を装備、SSD®を最適化、Twisted Rupas®舵を採用することで、高い燃費性能を実現しています。

・燃料ガス調整室、LNG 燃料タンクを居住区から船尾側に配置することで、従来の重油焚き船と同等の貨物容積を維持し、高い輸送効率を実現しています。

・WinGD 最新デザインとなる二元燃料電子制御エンジン 7X62DF-2.1 を採用、iCER (Intelligent Control by Exhaust gas Recycling) を装備して、燃費性能の向上、温室効果ガスであるメタンスリップの低減を図っています。

・低圧型の主機を採用することで、発電機、補助ボイラを含めた燃料ガス供給装置をシンプルにすることができ、機器の省スペース化や省電力化を図っています。

・主機の他、発電機、補助ボイラを二元燃料仕様とすることで、クリーンな LNG 燃料を最大限使用し、また燃料 LNG がタンク内で自然蒸発して発生する N-BOG (Natural Boil Off Gas) を無駄なく利用することができます。

・当社が開発した船舶監視装置 (Sea-Navi®2.0) を搭載。航海中の各種データをモニタリングし、Web Cloud 上のアプリにて燃料供給装置の状態監視を行うことで、陸上からのサポートを可能とし、LNG 燃料の取扱いに関する船員負荷の低減を図っています。

弊社は今後も、経済性・環境性に優れた最新鋭のエコシップの開発・建造に努めてまいります。

